

せまほしきと申させ給ひけるに、心もどなく、いそぎおぼしめす事にこそありけれど、ほとなきゆづりきこえさせ給ひけるに、きさいの宮はさ思ひても申さざりし事を、たゞゆくすゑの事をこそ思ひしかとて、いみじくなかせ給ひけり、さておりさせ給ひて後、人々のなげきけるを御らんじて、院雀○朱より后宮にきこえさせ給へりし、くにゆづりの日、
 日のひかりいでそふけふのしぐるゝはいづれのかたのやまべなるらん、きさいのみやの御返し、

まらくものおりぬるかたやまぐるらんおなじみ山のひかりながらに、なごぞきこえ侍りし、院は數月綾綺殿にこそはおはしまし、かのちにはすこしくいおぼしめすことありて、位にかへりつかせ給ふ御いのりなごさせ給ひけりとあるはまことにや、

〔續世繼二入重の潮路〕もとの女院ふたところ○鳥羽后待賢門院も、かたゞにかるからぬさまに

おはしますに、いまの女院○鳥羽后美福門院得子璋子高陽院泰子ときめかせ給て、このゑのみかどうみたてまつらせ給へ

る、東宮にたてまつりて、位ゆづりたてまつらせ給、その日たつの時より、かんだちめさまゞの

つかさゞゝまゐりあつゑるに、内○崇より院○鳥にたびゞ御つかひありて、藏人の中務少輔

○藤原師能とかいふ人かはるゝまゐり、又六位の藏人御書さゞげつゝまゐる程に、日くれがたに

ぞ神璽寶劔など、春宮○近衛の御所昭陽舎へ、かんだちめひきつゝきてわたり給ける、○中いまの

うち○近衛には、職事殿上人などおほせくだされ、あるべきことゞもありて、新院○崇は九日ぞ三

條西洞院へわたらせ給、太上天皇の御尊號たてまつらせ給、

〔保元物語〕後白河院御即位事

保延五年五月十八日、美福門院御腹ニ皇子○近衛御誕生アリシカバ、上皇○鳥羽殊ニ悦思召テ、何シ

カ春宮ニ立給フ、永治元年十二月七日、三歳ニテ御即位アリ、依テ先帝○崇徳ヲバ新院トゾ申ケル、